

2010年8月2日

総合科学技術会議

施策検討WG座長 白石隆 様

中鉢良治

第2回施策検討WG欠席にあたり、議題の第I章（基本理念）につき、気になる点を以下の通り意見として提出させていただきます。

【意見】

- これまでも何名かの基本政策専門調査会委員が指摘したように、次期基本計画策定にあたっては、まず、過去3期、特に、第3期の評価を改めて整理すべきである。その際、未実現項目について、なぜ実現できなかったのかの考察を十分行い、その考察結果を具体的に反映していくことを最優先にすべきである。
- 「ダイナミックな世界の変化と日本の危機」について
 - ① ここでは諸外国の政策の取組状況と日本の科学・技術の相対的ポジションを簡潔に記すだけで十分であると思料する。なお、諸外国は、戦略性の高いものへの重点化等、メリハリがある政策を展開していることを参考とすべきである。
 - ② オープン・イノベーションの考え方は極めて重要であり、科学・技術・イノベーション政策を推進する上で産業界を含め日本全体として欠けていた視点ではあるが、日本の産業競争力の低落傾向がオープン・イノベーションに未対応であったことのみ起因すると解釈される表記は適切ではない。基本政策専門調査会の場で本庶議員等からも指摘があったとおり、オープン・イノベーションは経営戦略の中で企業自身が考えるべきものであり、「自前主義」のアンチテーゼとして捉えるものではなく、また、国策として全ての企業にオープン・イノベーションを強要するとも受け取れる表現は基本計画として再考すべきである。
- 「第3期基本計画の実績と課題」について
 - ① なぜ生み出された多くの革新的技術が課題解決やイノベーションに結び付かなかったのか。この点を明らかにし、具体的施策を盛り込むことが、「科学・技術・イノベーション政策」を標榜する第4期基本計画で期待されている点であると思料する。
 - ② 「日本にはこれまでも、基礎研究に深く根ざしたブレークスルーへの挑戦から結実した技術が多くある。しかし、世界の産業の仕組みは変化し、(以下略)」の表記は、基礎研究に根ざしたブレークスルーへの挑戦が否定されているかのような印象を受ける。例えば「日本にはこれまでも、基礎研究に深く根ざしたブレークスルーへの挑戦から結実した技術はあるものの、近年、規模感や世の中に与えるインパクト等、諸外国と比肩しうる成果を生み出せている状況にあるとはいえ、効率的にイノベーションを生み出す仕組みの構築が急がれる。」とする修文は考えられないか。
 - ③ 「論文被引用数で世界トップに躍り出る研究者の輩出など、日本の基礎研究は着実に力をつけている。一方、論文の占有率、被引用数は漸減傾向で、論文相対被引用度の国際順位も低い。」の表記は、日本の基礎研究の相対的地位の高低を明快に表しているとは言えない。客観的に事実を捉えると「日本の基礎研究は、ごく一部に論文被引用数で世界トップに躍り出る研究者はいるものの、論文相対被引用度は先進国中、低順位のまま、決して世界トップレベルとは言えず、基礎研究の強化および基礎研究を取り巻く制度の抜本的改革が不可避である。」であり、その認識を委員間で共有すべきである。
 - ④ 基礎研究の質の一層の向上と、独創性、多様性に立脚した基礎研究の格段の強化との因果関係は必ずしも明確ではなく、質の向上に向けては、大学の在り方等、他の因子を追究すべではないか。現在の大学の在り方が、特に若手研究者の独創性や多様性を失わせている部分がないか考察すべきである。

以上